

読者の皆様、あけましておめでとうございます。初日の出は見ましたでしょうか。表紙の写真は綺麗な富士山のご来光ですが、コメントを読むとさらに感動しますのでコメントもお読みいただきたいと思います。

さて、1月号は一年に一度しか掲載されない記事が多い特別な号です。日本医師会長の松本吉郎先生、沖縄県医師会長の田名毅先生の年頭所感は今年一年の日本と沖縄の医療の方向性が感じられます。

新春干支随筆は、執筆される先生方の年齢がわかってしましますが、年齢に応じた（あるいは感じさせない、関係ない）内容で楽しんでお読みいただけますので、毎年楽しみにされている方も多いと聞きました。執筆者の意外な一面が垣間見え興味深いです。

生涯教育コーナーの上位申告者の発表もあります。私は自分の興味と時間があれば見る程度で問題は一、二度解いたくらいでしたが毎月、回答されている方がいて結構正答率も高いことに驚きました。上位の方のコメントもあり、学ぶ姿勢は参考になります。

今回の教育コーナーは胃 NET についてですが私たち（昔の人間）にはカルチノイド腫瘍と言われた方がピンとくる疾患です。MEN1 型や II 型分類は学生時代に暗記した気がして懐かしく感じました。

「はたちの献血キャンペーン（1/1～2/28）」は年初めの恒例ですが、私の初めての献血はこのキャンペーンの時期（大学入学して初めての正月明け）だったことを思い出しました。

出口理事の報告で県の防災訓練の報告もありました。普段からの備えが必要、「顔の見える

関係」構築のためには平時からの訓練の継続が大切だと思います。

玉城常任理事からの代議員会と都道府県医師会組織強化担当役員連絡協議会の報告もありましたが、令和7年度医師会報で担当記事（登場回数）が一番多かったのは玉城常任理事（私が数えたところ18回で田名会長より多い）でした。今年も忙しい一年になると思いますがお身体大切にされてください。

琉球大学医学部新任教授記念講演会は関根先生、川上先生、浜崎先生、三人の先生方の講演内容が紹介されています。専門分野やキャリア、今後の抱負などがわかる内容です。

インタビューコーナーは県立北部病院の佐々木先生です。中部病院の後輩ですが、同じ県立病院の院長として一緒に頑張っていきたいと思っています。

最後に広報委員の新春の挨拶もありますのでお付き合いいただければ幸いです。

令和8年、午年が皆様にとりまして素晴らしい一年になることを祈念いたします。

今年も沖縄県医師会報をよろしくお祈りします。

広報委員 天願 俊穂

